

# 網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari  
visitor center

## Vol.115

2024.7



## ムササビの朝ふかし？

iwatesanrokunoikimonotachi iwatesanroku

＊ 岩手山麓の生き物たち ＊

tesanrokunoikimonotachi iwatesanroku

### のんびりした様子の「ムササビ」

例年より遅い梅雨入りになったものの、梅雨らしくない晴れの日が続いたある日の早朝、岩手山の御神坂コースでムササビに出会いました。どちらかと言えば標高のあまり高くない里山で暮らしている印象のあるムササビですが、その日は標高が 1,000m 付近のブナやミズナラが辺りに見られる広葉樹林の中。「こんなところにもいるのか〜」と生息する範囲の広さを改めて再認識しました。細い木につかまるその姿は、ぬいぐるみそのままのあどけなさで「本物のムササビ？」と状況を飲み込むまでに少し時間を要しました。横から見ると体の脇の余った皮膚が膜に変わったとされる飛膜がひだ状にたわんでいます。それを高い所から滑空する際にマントのように広げてバランスを取ったり方向を変えたりする他、急上昇や急降下までできるとのこと。その飛膜を広げての滑空は見られませんでした。日の出から既に 2 時間以上経っていたこともあるのか、緩慢な様子のムササビは凝視しているこちらには気にもとめず、細い木から隣のブナに移るとゆっくりとした動作で登り始めました。枝が途中で折れてしまった先に体を乗せると辺りを確認するかのように見下ろしてから、またゆっくり登って行きそのまま姿が見えなくなりました。今度は網張の森で出会って軽やかに滑空する姿を見てみたいです。

What is "Musasabi"?

『モモンガより大きい  
リスの仲間』

リス科

頭胴長：約 27～48cm

分布：北海道～九州

日本固有種。夜行性で木の上で暮らし、平地から山地にかけての森林に生息する。巣は主に大木にできた樹洞などに作り日中はその中で休息している。太くて長い尻尾は滑空中のバランスを取ったり、舵取りに役立っている。

(画像提供：大堀 拓 氏)

(参考図書：「ムササビを調べよう」他)

iwatesanrokunoikimonotachi iwatesanroku iwatesanrokunoikimonotachi iwatesanroku iwatesanrokunoikimonotachi iwatesanroku iwatesanroku



# 光と色の いろいろ

No. 2

子どもの頃、イソギンチャク（刺胞動物）やヒトデ（棘皮動物）、といった磯の生きものと遊んだ記憶があります。カンブリア紀を境に眼を持つ生きものが繁栄した一方で、明確な眼を持たない種が今なお生き続けていることには驚かされます。触手や管足といった感覚器官を通じて、私たちには見えない世界を彼らは感じ取っているのでしょうか？さて、眼の進化を選んだ私たちの祖先は勢力を広げ、海から陸へとその活動領域を拡大し、幾星霜の歳月を経て現在に至ります。

## 生きものは世界の形を正確に捉えるために眼を発達させてきた

眼とは外界から光の刺激を受けて体内で何らかの像を結び、把握する能力です。「杯状眼」は視細胞の集まりに窪みをつける事で、光の入ってくる位置が判別できる仕組みですが、取り込む像の精度はまだ粗いです。

視細胞の数が増えた「ピンホール眼」は、取り込む像が鮮明になりましたが、光の届きにくい暗い所では見えづらくなる欠点がありました。

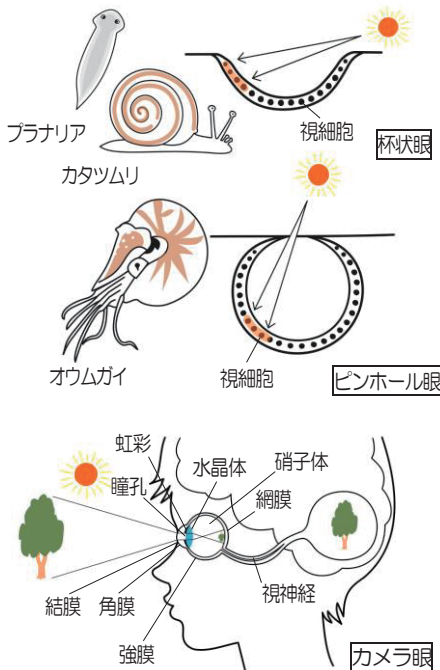
私たち人間ももつ「カメラ眼」は角膜や水晶体が光の屈折を利用し微調整した像を網膜から視神経、脳へ送る事で優れた視力を獲得しています。さらに、網膜には光を感知する視細胞の他に、暗いところで働く桿体細胞や、形や色を感知する錐体細胞が備わっており、様々な環境下で像を結ぶ事が可能になっています。

これまで紹介した眼とは異なる仕組みを持つのが、昆虫や甲殻類など節足動物がもつ「複眼」です。次回は生きものがどのように世界を見ているのか、人間の視覚との違いを比較してみたいと思います。



オオマルハナバチ 複眼

参考図書：入倉 隆『奇想天外な目と光のはなし』



アミハリ・バース  
Vol. 5 8

## ミソサザイ

科名：ミソサザイ科  
全長：約 10.5cm  
生態：留鳥・漂鳥  
分布：九州以北

日本ではクイタダキと肩を並べる小さな野鳥、ミソサザイは山地の溪流沿いや崖地を好んで生息します。胸を張り尾羽を上げ、体全体で絞り出すようなそのさえずりは、小さな体からは想像できないほどの声量です。雄は小枝やコケなどで巢の外側を完成させ、雌へのアピールを行います。巢が気に入った雌は、それを引き継ぎ、コケや羽毛を集めて内装を整えます。ミソサザイは一夫多妻制であり、抱卵から子育てまでの全てを雌が担当します。雄は当初から同時進行で作っていた複数の巢を回り、新たな繁殖機会を伺うそうです。初夏になってみてもさえずりが聞こえてくるのが納得ですね。



K. Hirano  
'24





おかげさまで今年度、開設 20 年目を迎えます！

## スタッフの目から見た網張ビジターセンターの20年

大堀 拓（元網張ビジターセンター主任解説員）

### 第二話 展示のタネは無尽蔵？

もし私たち自身が来館者だったらビジターセンターに何を期待するのだろうか？「国立公園の魅力」、「自然保護の大切さ」など一方的に「説明されて」何か感じるものだろうか？「美術館でもない、博物館でもない、と言って郷土資料館とも違うビジターセンターで展示すべきものは？」という私たちの問いに対する答えは来館者の行動の中にありました。

開館当初から業者製作の3D 空中写真情報検索パソコンは大変な人気でしたが頻発する故障と高額な修理費に悩まされました。そんな時、スタッフ手作りの地味な展示の前で足を止める来館者が意外と多いことに気が付きました。岡森解説員が通路に動物の足跡を手書きし、その足跡をたどると動物の実物写真に行き着くようにすると、子供たちが興味を示すようになりました。富山解説員は本格的にハンズオン（実際に手を触れることで体験的に理解させる教育手法）を学んできてスタッフに広めました。森から集めてきたダケカンパの



皮に好きなことを書いてもらうようにしたのは戸澤解説員のアイデア、「網張へ来た動機」、「登山の辛さと感動」、「将来への夢と不安」、「家族への想い」、「恋と友情」等が書き込まれ、机の上が山盛り状態に。

近くの水溜まりで干上がる寸前のヤマアカガエルのオタマジャクシを救出し、水槽に入れて置いたら、わざわざ会いに来る人が出るまでに。これに味を占め館内に入り込んだクワガタムシやバッタも生態飼育展示の材料にしました。来館者の中からも展示に協力する動きが始めました。地元の登山家たちが今では入手不可能な由緒ある登山用具と山岳関係図書を寄贈してくれ館内の一角にミニ山岳博物館兼図書館が出来上がりました。林業関係者から頂いたツキノワグマやニホンカモシカの



骨格標本は自由に触ってもらうようにしました。アマチュア



写真家の吉田さんがビジターセンターテラスから見える山々の展望パノラマ写真を立派なパネル張りに仕立て館内中央に展示してくれ、たちまち人気スポットになりました。パークボランティアの米田

さんは木板に難解漢字で野鳥や植物の名前を記した「いくつ読めるかな？」クイズを自作して壁に設置してくれました。子供向けの展示が無かったので「キッズコーナー」をつくることに。広野解説員が木工クラフトで作った「ドングリコロコロアドベンチャー」、坂内解説員が季節の生き物写真を用いて作ったクイズ「わたしは誰でしょう？」、研修に来た県立大



学学生の小野君が作った昆虫パーツを組み合わせる「私だけの昆虫づくり」等が並び、子ども達が時間を忘れて熱中する姿が見られるようになりました。2ヶ月毎の「企画展示」も多くの地元アーティストたちの無償の協力により「絵画展」や「写真展」として開館以來現在まで続いています。



この間、私たちスタッフが学んだことは何だったのでしょうか？それはビジターセンターとは「展示する側と見学する側が分かれているのではなく、

来館者自体も展示に参加する施設だ」ということ。その象徴がホール中央に設置された大型パネル「網張の森でいきもの見つけ」。網張の森白地図に来館者自身が実際に森で出会った生き物たちの姿や感想をイラスト交りで書き込んでいくので最新の情報マップとなります。既存の展示の間に来館者が参加する多くの手作り展示がモザイク状に埋めていきました。それぞれ違う関心を持つ来館者のニーズに応えるためにも、この展示の多様性が制限されることなく続いて欲しいと願っています。

### 網張の森 定点観察②

平年より8日遅い6月23日の梅雨入り。水不足なのか、ビジターセンター前のオオヤマザクラは樹冠に赤い葉が見られました。ヒメボタルへの影響も懸念されましたが、昨年より若干少ないながらも今年も飛翔を観察できました。



定点観察の「トチノキ」

定点観察の「ブナ」

「湯ノ沢橋」 撮影：7/2

梅雨入り前日の6月22日は沢の水がすっかり干上がっていましたが、その後の雨により回復。爽やかなせせらぎと木漏れ日に癒されます。橋を渡るとブナ、トチノキの他にウリハダカエデ、イタヤカエデ、ヤマブドウ等の樹木を目線の高さで観察できるおススメスポットです。

#### ブナ（ブナ科）



5/29 果実から伸びる2つの雌花の柱頭がカールしている。堅果はこの下に育つ。



6/10 複数の揺籃が見られる。揺籃の外側が葉の表であり、葉脈の主軸が切られていることからオトシブミと思われる。

（同定協力：伊達生物調査研究所 伊達功氏）  
（参考図書：文一総合出版「オトシブミハンドブック」）



6/22 冬芽を見つけた。記録画像を見返すと5/13には小さな冬芽が付いていた。



7/13 たわわに実った果実が褐色に色づいてきた。近くでミヤマクワガタに出会った。

#### トチノキ（ムクロジ科）



5/25 花が咲き始めた。赤い蜜標はまだない。近くのツリバナの花が見事だ。秋が楽しみ。



6/3 花の甘い匂いに誘われてハナバチの仲間が忙しく飛び交っていた。



6/22 果実が付く。ヤグルマソウの白い花が沢を涼しげに演出していた。



7/2 ミドリシジミの仲間がたくさん集まっていた。風が吹いた翌日はチョウ類に出会えるチャンスだそうだ。



### 6/23～網張ビジターセンター開設20周年記念行事～ 市民火山教室「七滝から知る岩手山～ 火山地形ハイキング」



四季を問わず人気の「七滝」は「焼切沢溶岩」にかかる滝で、溶岩地形に起因して生じています。西岩手カルデラ中央の御苗代火山との関わりを現地で地形を見ながら岩手火山地質研究所所長の土井先生より、解説していただきました。「なぜ火山教室で滝を選んだのか今朝までずっと疑問に思っていたが、解説を聞いてやっと納得できた」総勢17名

### 季節に応じた行事を開催しています！ 『ミニプラス行事』

毎週土日祝日に開催しているミニ企画。時間も内容も少しプラスした行事も開催しています。5/25は「グレンデ登山ウォーク」。岩手山網張コースをうさぎ平まで登山。シラネアオイが見頃でした。6/9は「チョウ類モニタリング調査体験」環境パロメーターであるチョウ類。「トランセクト調査」方法の実習を交えて体験しました。



「チョウ類モニタリング調査体験」の様子

### ヤマアカガエルの赤ちゃん 今年は58匹森へ帰りました！

カエルの赤ちゃんへのメッセージコーナーへ「小さなオタマジャクシが大きな森を育てますように」他たくさんの声を寄せていただきました。6/22ミニ企画「カエルの赤ちゃんを森へ帰そう」での様子。6/25最後の3匹卒業。



### 7/6～7/10 「夏の網張の森ヒメボタル観察会」

5日間のうち朝から雨の心配のない日は1日だけという生憎の天気、で、長靴やカッパを着用又は傘をさしての観察という日もありましたが、毎日ヒメボタルを観察することができ、目の前を飛ぶと歓声があがりました。「森のホタルは森の宝石」参加者感想より。



### 5/23～24 雫石町グリーン・ツーリズム



仙台市鶴谷中学校2年生6名。自然観察、樹名板作成・取り付け、ミニ登山を体験。

### 5/24 フレンド滝沢「春の遠足」

滝沢市内の中学生2名引率2名。網張の森散策と草花のたき染めを体験。



### 国立公園で楽しむ親子の自然体験 7/13『ナイトハイクと星空観察☆』



星の先生から、流れ星、ペルセウス座流星群や星座盤の見方、当日の星空について、テラスにて空を見ながらお話を伺い、ポケットライトを手に夜の森を通してスケーグレンデへ。芝生に寝そべり、さそり座、おおくま座、夏の三大角等を観察。月は天体望遠鏡で観察しクレーターもはっきり見えました。望遠鏡を覗く度に感動の声があがりました。「今回は十分楽しんだ」参加者感想より。総勢23名

## インフォメーション



### 国立公園で楽しむ親子の自然体験



### 8/3(土)『夏休み！親子で楽しむ だて先生の昆虫観察』

9:30～12:00 網張ビジターセンター集合

講師：伊達 功 氏(岩手虫の会)

定員：親子7組15名 ※要事前予約

### 8/25(日)『華花があそび道具に変身！ ～いろんな華笥を奏でてみよう♪』

9:30～12:00 網張ビジターセンター集合

講師：松木 佐和子 氏(岩手大学講師)

定員：親子7組15名 ※要事前予約

### 9/8(日)『おかわりしたくなる！炭火炊飯体験』

10:00～14:00 網張ビジターセンター集合

講師：坂内 信彦 氏(炭焼き人)

定員：親子5組10名 ※要事前予約

※上記行事 参加料：大人800円 中学生以下400円

### 9/21(土)『鞍掛山麓 ハイキング&写真入門』

9:30～12:00 たきざわ自然情報センター集合

講師：小坂 富男 氏(写真樹景)

定員：15名 ※要事前予約

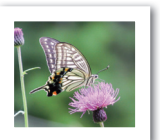
参加料：大人800円 小学生以下400円

共催：滝沢市・滝沢市山岳協会・

(一社)滝沢市観光物産協会

### 7/24～8/28 夏休み特別企画 「網張の森の昆虫たち」

昆虫写真展、昆虫標本展示に加え、昆虫のスケッチや折り紙コーナーを設置しています。森の豊かさや生きものについて考えるきっかけに、是非ご覧ください。



### 現在開催中のビジターセンター企画展 7月1日(月)～8月31日(土)

#### -小坂 富男 写真展-「網張近郊 四季の風景」



自然風景の撮影をするようになって撮影地、撮影時期など気になることが多くありますが、生まれ育った雫石町にはよく向かいます。何気ない見慣れた風景も春の桜、緑の夏、秋の紅葉、冬の雪景色など、四季折々の風景が広がります。

また、気を付けていないと見逃してしまいそうな朝夕の光景など、雫石町エリアの魅力を写真を通じてその場の情景を感じていただけたら幸いです。 - 出展者の言葉より -

### モモンガのつぶやき

昨年網張の森に咲くカラスシキミの花を教えていただきました。やや薄い皮質で柔らかく光沢のある緑色の葉に縁どられた小さく真っ白な数輪の花は可愛らしく、自然のプーケのように感じました。今年も是非見たいと思い開花時期のかなり前から見守っていましたがなかなか観察できません。「いつ咲くのだろう」と思いつながら見に行ったらある日、なんと！赤い実が付いていました。花は終わってしまったのです。トホホ…という思いでしたが仕方ありません。また来年のお楽しみで。 (C)



### 十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 5月 2,051人 ◆ 6月 1,661人  
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 5月 8.9℃ ◆ 6月 13.7℃

### 発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 夏期 (4月から10月末まで) 休館日なし 9時～17時